

## AOT (Assertive Outreach Team: 積極的訪問チーム) 活動報告

### —多職種チームによる包括的な地域生活支援の取り組み—

秦 基子<sup>1)\*</sup> 田中聡子<sup>2)</sup> 植田俊幸<sup>2)</sup> 清水須美子<sup>3)</sup> 浅雄あさひ<sup>4)</sup> 伊賀由華<sup>3)</sup>

尾崎真紀<sup>3)</sup> 武田久美子<sup>3)</sup> 福光浩二<sup>3)</sup> 福安志津<sup>3)</sup> 山添早苗<sup>3)</sup>

- 1) 国立病院機構鳥取医療センター臨床研究部 2) 同 精神科 3) 同 地域医療連携室  
4) 同 リハビリテーション科

## A report on the activity of AOT: Assertive Outreach Team

### — Comprehensive support for the life of psychiatric patients in the community by the multidisciplinary team —

Motoko Hata<sup>1)\*</sup> Akiko Tanaka<sup>2)</sup> Toshiyuki Ueta<sup>2)</sup> Sumiko Shimizu<sup>3)</sup> Asahi Asao<sup>4)</sup> Yuka Iga<sup>3)</sup> Maki Osaki<sup>3)</sup>

Kumiko Taketa<sup>3)</sup> Koji Fukumitsu<sup>3)</sup> Shizu Fukuyasu<sup>3)</sup> Sanae Yamazoe<sup>3)</sup>

- 1) Department of Clinical Research, NHO Tottori Medical Center  
2) Department of Psychiatry, NHO Tottori Medical Center  
3) Regional Medical Liaison Office, NHO Tottori Medical Center  
4) Department of Rehabilitation, NHO Tottori Medical Center

\*Correspondence: 〒689-0203 鳥取市三津 876 番地 鳥取医療センター心理事務室

## 要旨

近年、精神障害者の地域ケアとして ACT (assertive community treatment: 包括型地域生活支援プログラム) の有効性が注目されている。ACT とは、重度の精神障害を抱えることで頻回入院や長期入院を余儀なくされていた人々の地域生活を支援するケースマネジメントであり、「地域生活中心」「リカバリー」「ストレングス」という 3 つの理念が重視されている。A 病院においても ACT チーム立ち上げを目指し、重度の精神障害を抱えた方の地域生活を支えるために、医療面だけでなく福祉面や心理面の多職種による訪問サービスを包括的に提供する AOT (assertive outreach team: 積極的訪問チーム) の活動が開始された。国内の ACT チームの大半が訪問看護ステーションなどとして独立した組織として運営されているのに対し、AOT は総合病院の一部門として位置づけられ、入院中に利用者との関係作りや退院支援を開始し、退院後は利用者の生活の場へ訪問しサービスを提供する。支援に際しては、ACT の理念であるリカバリーを大切に、ストレングスモデルに基づく援助を心がけている。本報告では、活動開始から約 1 年が経過した AOT の活動内容を概観し、これまでの成果と今後の課題について考察した。A 病院 AOT チームの構成スタッフは、医師 1 名、看護師 4 名、精神保健福祉士 3 名、心理療法士 2 名、作業療法士 1 名であるが、常勤スタッフは看護師 2 名のみである。それぞれのスタッフが自らの専門性を活かしながら、職種の枠にとらわれず共通の理念を持って支援を提供している。こうしたプログラムを実施するには、AOT チームに包括的な支援を行えるような権限が与えられなければならない。総合病院の一部門である AOT がこのような活動を続けてこられた背景には、院内各部署からのスタッフの派遣、入院中の対象者に関するミーティングの実施など、活動への理解と協力があつた。今

## Abstract

Assertive Community Treatment (ACT) has recently attracted attention as an available method of community-based care for psychiatric patients; that is, ACT is defined as a management method supporting the life of psychiatric patients in the community, after a history of being admitted to hospital frequently or admitted for a long time because of their severe psychiatric conditions. The important principals in ACT consist of “community-life orientation”, “recovery” and “strength”. In Hospital A, which has a future aim to establish an ACT team, the activity of AOT (Assertive Outreach Team) has been launched to support severe psychiatric patients living in the community in their medical, welfare and psychological aspects, and comprehensively to provide visiting medical health service by the team consisting of 1 psychiatrist, 4 nurses, 3 psychiatric social workers, 2 clinical psychologists, and 1 occupational therapist. Although the full-time employees consist of only 2 nurses among these staff members, the staff provide service with a common principal, by taking advantage of their respective professional disciplines but not allowing these disciplines to become overly restrictive. To successfully carry out this program and provide comprehensive support for psychiatric patients, the AOT team should be fully authorized. In fact, the AOT team has been able to constantly and successfully provide the service because staff members have been delegated from many existing departments in the hospital and shown good cooperation and understanding in conducting AOT activities. Furthermore, services to be provided are thoroughly discussed at meetings prior to discharge. At present, the AOT team provides services for 2 inpatients and 4 patients living at home with schizophrenia. Tottori J. Clin. Res. 3(2), 134-139, 2010

Key words : 精神障害者, 地域精神保健サービス ACT (包括型地域生活支援プログラム), AOT (積極的訪問チーム), 統合失調症; psychiatric patients (mentally handicapped persons), community-based mental health service, assertive community treatment, assertive outreach team, schizophrenia

## 1. はじめに

精神障害者が地域で生活するにあたって、様々なサービスの提供が関連機関ごとに断片化されることにより、必要なサービスが抜け落ちてしまったり、利用者の負担が大きくなったりすることが従来の地域精神保健サービスの問題として指摘されている。そうした状況の中、近年、精神障害者の地域ケアとして ACT (assertive community treatment: 包括型地域生活支援プログラム) の有効性が注目されている。

ACT とは、重度の精神障害を抱えることで頻回入院や長期入院を余儀なくされていた人々が病院の外でうまく暮らし続けていけるように、さまざまな職種の専門家から構成される援助プログラムの事である。精神障害者の地域生活を支援するケースマネジメントの中でも、もっとも集中的・包括的なモデルの 1 つであり、プログラム利用者が実際に暮らす環境に出向く訪問の形でほとんどのサービスが提供される<sup>1)</sup>。

ACT では、「地域生活中心」「リカバリー」「ストレングス」という 3 つの理念が重視され

ている<sup>2)</sup>。「地域生活中心」とは、重度の精神障害を抱えていることが地域生活を送れない理由にならないとする考え方である。この考えに基づき、ACT では利用者が地域生活を送る場所でサービスが提供され、入院を緊急時の一時的な対応として捉えられている。「リカバリー」とは、利用者が障害を抱えながらも、希望や自尊心を持ち可能な限り自立し、意味のある生活を送れるよう支援すること、そして利用者が社会に貢献することを学ぶ過程を支援することである。そのため、ACT のスタッフには、精神障害を抱えた利用者の可能性を信じ、希望を失いかけた人々に希望を伝えることが期待されている。また「ストレングス」とは、疾病や障害、問題点などではなく、利用者自身やその方を取り巻く環境がもっている健康的な部分や可能性に注目することである。利用者がもつ関心や願望もストレングスに含まれる。ACT におけるケースマネジメントや支援計画の立案は、これらの理念に基づき行われる。

これらの特徴をもつ ACT のプログラムは、